

第 39 回レーザセンシングシンポジウム開催趣意書

第 39 回レーザセンシングシンポジウム
実行委員長 東京大学 藤井 隆

レーザセンシングシンポジウムは、1972 年に開催された第 1 回レーザレーダシンポジウムから始まり、第 12 回から現在の名称に変更され、今日に至っています。本シンポジウムは国内最大のレーザレーダ（ライダー）に関する学術会議であり、ライダーを代表とする様々なレーザセンシングに関わる全国の研究者や技術者の発表と情報交換の場として機能しています。

第 1 回レーザレーダシンポジウム開始の際に、日本のライダー研究の先駆者でおられた故・稲場文男先生を会長としてレーザ・レーダ研究会が組織され、シンポジウムの開催、レーザセンシング技術の向上と普及に関する活動をすすめてきました。また、レーザ・レーダ研究会は、日本で開催された第 6 回（1974 年、仙台）、第 17 回（1994 年、仙台）、第 23 回（2006 年、奈良）の国際レーザレーダ会議（ILRC）において現地実行委員会を構成するなど、国際的な活動にも大いに貢献してきました。2018 年からは、「レーザセンシング学会」として、新たに学会としての活動をスタートさせました。

レーザセンシングシンポジウムは今年で 39 回目となります。これまでと同様に、ライダー、レーザ技術、レーザ分光、レーザ計測など、幅広いレーザセンシング技術の開発と応用に関する学術成果の発表、今後の研究に関する提案や展望など、幅広い話題を期待しています。ちなみに、前回は令和 2 年 9 月 3 日～4 日にオンラインで開催され、86 名が参加し、34 件の発表がなされました。本年は、当初、東京大学での開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの収束の見通しが立たないため、前回に引き続き、オンラインで開催することとなりました。Face to face での議論や情報交換はできませんが、チャットを活用するなど、オンラインの良さを生かした大会にしたいと考えていますので、多数のご参加を期待しております。

2015 年 9 月の国連サミットにて、国連加盟 193 か国が 2030 年までに達成する目標として、SDGs (Sustainable Development Goals) (持続可能な開発目標) が全会一致で採択されました。また我が国では、国会において菅首相が、2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。このように、地球温暖化に代表されるグローバルな地球環境問題に関する世界的な関心は一層大きくなっています。一方、近年、ライダー技術は、環境計測のみならず、自動車の自動運転技術への適用など、産業分野において新たな応用への展開が進んでいます。

本シンポジウムは、レーザセンシングの装置開発、計装技術、計測技術、データ解析・運用技術など、様々な技術分野の専門家に加え、気象・環境関係の研究者が集い、情報交換を行い、研究分野や技術の融合を図る場として、重要な役割を担っています。今回のシンポジウムでも、レーザセンシングに関する幅広い分野の話題を取り上げてゆく予定です。関係各位のご参加を心よりお待ちしております。